

5. 幕別町の住宅・住環境に関する課題

(1) 課題の整理

①人口減少、少子高齢化に対応した多様な世代が交流できる住宅・住環境づくり

「幕別町人口ビジョン」や「国の推計プログラム」による将来人口や世帯数については、共にゆるやかに減少していくと推計している。

令和5年1月末現在の住民基本台帳による本町の人口は25,888人であり、うち65歳以上の人口は8,771人、高齢化率は33%という状況となっている。

また、本町の世帯数は12,603世帯であり、うち65歳以上のいる世帯は6,102世帯、高齢者のいる世帯割合は48%になっていることから、高齢者世帯に対しての住環境整備も重要となっている。

その他、近年では働き方改革の進展や新型コロナウイルスを契機としてのテレワーク等を活用した新たなライフスタイルにより、高齢者・障がい者だけでなく多様な世代に対応した住環境が求められている。

これらのことから、高齢者・障がい者や子育て世帯ほか、住宅の確保に配慮を必要とする世帯など多様な世代が安心して生活できる住宅、各種生活支援サービスや施設の充実などを進めていく必要がある。

②幕別町における定住を支える、良好な住宅・住環境づくり

本町の住宅の持ち家率は令和2年の国勢調査で73.2%となっており、北海道平均の56.4%を大きく上回っている一方、住宅ストック数は、平成30年（2018年）の住宅土地統計調査によると13,320戸あり、その内1,030戸が空き家となっている。

このようなことから、今ある既存住宅ストックを有効活用し、効率的な市街地形成を図るとともに地域コミュニティの活性化を進め、快適で安全・安心な住居環境の維持が必要である。

また、昭和40年代から60年代に建設した簡易耐火構造平屋建の公営住宅は全戸において耐用年限を経過し、老朽住戸が多くなっていることから、公営住宅の改善について、早期かつ着実に実施し、良質な公営住宅等の供給に努める必要がある。

③自然環境の保護と循環型社会を踏まえた、住宅・住環境づくり

国では、2050年までに、温室効果ガスを実質ゼロにする「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、2030年度の削減目標を2013年度対比46%削減としているところである。

幕別町の2021年度の温室効果ガスの排出量は229,000 tであり、2013年度の排出量251,000 tと比較し22,000 t、8.8%の削減にとどまっている状況であることから、本町においても2030年度までの削減目標である2013年度比46%を達成すべく脱炭素社会の実現に向けた取組みが必要であり、健康で豊かな暮らしに寄与する良好な住宅の供給及び住宅循環システムの構築が必要である。

●地区別の課題

幕別本町地区、札内地区、忠類地区のそれぞれの地区における主な課題をまとめる。

表 地区別の課題

地区	現状	住宅・住環境に関する課題
幕別地区	<p>【まちの特性など】</p> <p>○役場をはじめ全町的な公共施設等が集積立地しており、古くから幕別町の拠点機能を担っている。</p> <p>【人口・世帯】</p> <p>○全町人口の約20%が居住している。</p> <p>○人口は経年的に減少傾向にあり、今後とも減少が予想される。</p> <p>○高齢化率は、約43%と全町平均（約33%）と比較して高く、札内地区・忠類地区と比較して最も高くなっている。</p> <p>【住宅・住環境】</p> <p>○持ち家率は約78%と全町平均（73%）と比較して高く、公営住宅率も約11%と全町平均（8.9%）より高くなっている。</p> <p>○公営住宅等において、「南町旧」「緑町3」「新緑町西」「新緑町東」では、全戸が耐用年限を経過している。</p>	<p>○今後とも全町の中心地区として、定住人口の維持・確保とともに、高齢者等も安心して住み続けられる環境が必要。</p> <p>【公営住宅等の役割】</p> <p>○定住人口の維持・確保、高齢者等の安心居住に向けた、良質な受け皿づくりが必要。</p>
札内地区	<p>【まちの特性など】</p> <p>○帯広市に隣接する住宅需要の高い地区であることから、多くの宅地造成が行われており、また広域道路沿道では大規模商業施設の集積が進んでいる。</p> <p>【人口・世帯】</p> <p>○全町人口の約73%と多くが居住している。</p> <p>○人口は増加傾向にある。</p> <p>○高齢化率は、約30%と全町平均（約33%）と比較して低く若年世代が多くなっている。</p> <p>【住宅・住環境】</p> <p>○持ち家率は約72%とほぼ全町平均（73%）と同様の割合であるが、民営借家率が約18%と全町平均（約15%）より高くなっている。</p> <p>○公営住宅等において、「泉町東」「桂町東」では全戸が耐用年限を経過している（桂町東は全戸が全面的改善済み）。「あかしや南」において、現在建替事業が行われている。</p>	<p>○生活利便性を活かして、多様な世代が集い、安心して生活できる環境づくりが必要。</p> <p>【公営住宅等の役割】</p> <p>○子育て世帯・高齢者世帯などをはじめとした、多様な世代に対応した受け皿づくりが必要。</p>

	老朽化による不具合が発生している大規模中耐団地（あかしや南）が立地している。	
忠類地区	<p>【まちの特性など】</p> <p>○酪農を産業基盤とした、豊かな自然環境に恵まれた地区である。近年、帯広・広尾自動車道の供用により交通利便性が向上した。</p> <p>【人口・世帯】</p> <p>○全町人口の約5%が居住している。</p> <p>○人口は経年的に減少傾向にあり、今後とも減少が予想される。</p> <p>○高齢化率は、約39%と全町平均（約33%）と比較して高くなっている。</p> <p>【住宅・住環境】</p> <p>○持ち家率は約61%と、全町平均（約73%）に比較して低くなっている。一方では、公営住宅率は約22.5%と高くなっている。</p> <p>○民営借家率は9%程度と全町平均（約15%）よりも低いが、近年増加がみられる。</p> <p>○公営住宅等において、「忠類白銀町団地」では全戸が耐用年限を経過している（うち16戸は全面的改善済み）。</p>	<p>○自然環境に恵まれた潤いある生活環境の中で、誰もが安心して生活しつづけられる環境づくりが必要。</p> <p>【公営住宅等の役割】</p> <p>○地域の定住を支える良質な受け皿づくりが必要。</p>